



誰もが住んでみたい村に
農業農村整備

事業概要

平成19年度



農地・水環境保全活動
平良地区



ひまわり祭り
七又地区



貯水池改修
塩川高穴地区



県営畑地帯総合整備事業
(山地地区散水状況)



土壌保全の日
山地地区



海岸清掃
新城海岸



防暑設備整備
佐良浜漁港



マンゴー



美ぎ島グリーンネット活動
上野宮国



沖縄県企画部 宮古支庁農林水産整備課

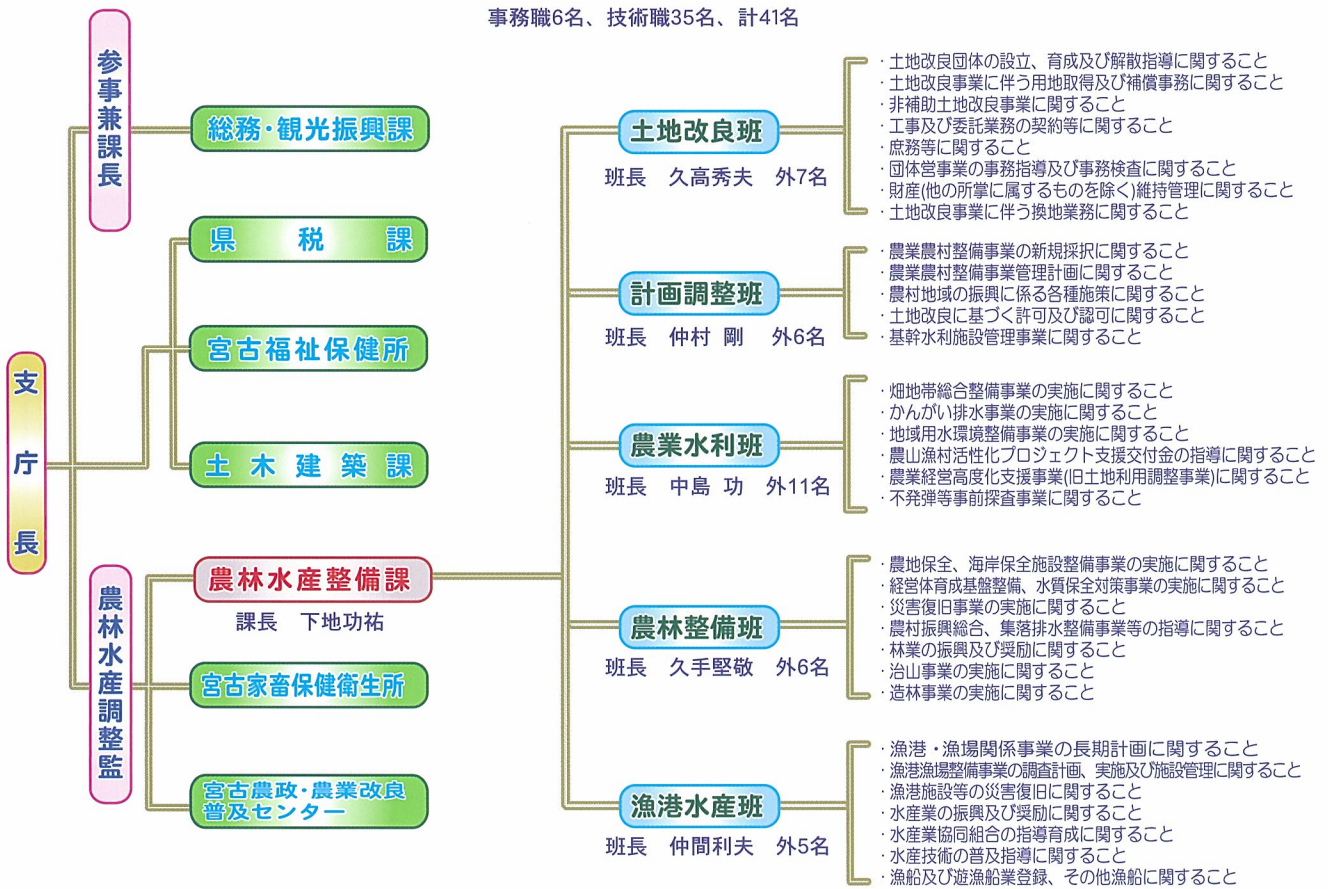
所在地:〒906-0012 宮古島市平良字西里1125番地

TEL (09807) 2-2365

FAX (09807) 3-2314

I. 宮古支庁農林水産整備課機構図

事務職6名、技術職35名、計41名



II. 地域の概要

1. 位置及び面積

宮古群島は北東から南西へ弓状に連なる琉球弧のほぼ中間にあって北緯24度から25度、東経125度から126度の中にあつて、沖縄本島からおよそ303kmの距離に位置している。

宮古群島は八つの島(宮古本島、伊良部島、下地島、多良間島、水納島、池間島、大神島、来間島)からなり、そのうち宮古本島がもっとも大きく総面積の70%を占め、群島の中心をなし周囲は102.9kmである。本群島の総面積は226km²で、これは沖縄県総面積のおよそ10%に当たる。島全体がおおむね平坦で低い大地をなし、宮古本島東部(城辺地区)の横竹一帯が最も高く海拔114.5mである。

2. 宮古の気候

宮古は年平均気温が23.1℃で四季をとおして緑につつまれた暖かな気候であり、年平均湿度は79%で高温多湿な亜熱帯海洋性気候に属している。降雨量は年間およそ2,030mmで雨量の分布は時期的に片寄っている。風向きは冬は北～北東、夏には南～南西より吹き、台風は主に6月～10月頃に数回到来する。平年5,6月は梅雨期でかなりの雨量をもたらすが、7～9月頃まで毎年のように干ばつにみまわれている。中でも昭和46年に大干ばつがあり連続干天日数が185日を記録し、又台風は昭和41年9月に第二宮古島台風で最大瞬間風速85.3m/s、昭和43年9月には第三宮古島台風で最大瞬間風速79.8m/s等の記録がある。

3. 宮古の土壌

本地域の土壌は、琉球石灰岩を母材とする暗赤色を呈する弱アルカリ性の島尻マージがほとんどを占めるが、カルスト台地上の浅い谷の集中する比較的広い谷底低地では、ジャーガルがわずかに分布している。広く島尻マージが分布する本地域では、耕土が薄く、そのため干害を受けやすく、農業生産は不安定である。また、基岩の露出が多く、農業機械の効率的な稼働を阻害している。

4. 宮古の農業

宮古の農業は自然・地理的に厳しい環境下、サトウキビを基幹作物とした土地利用型農業が行われてきている。しかし近年、地下ダムによるかんがい用水の確保やほ場整備等、農業生産基盤の整備が進んだことで、安定した葉たばこ生産が行われ、野菜や熱帯果樹等の生産や肉用牛との複合経営等が増えつつある。野菜については、平成18年2月、宮古島市のゴーヤー、トウガン、カボチャが県の拠点産地として認定を受けている。

5. 宮古の水産業

本地域は亜熱帯性海洋域に属し、水産業の立地条件としては比較的恵まれた位置にある。水産業は、沖合のパヤオ(浮魚礁)を利用した曳き縄・カツオの一本釣や伝統の迫込み網漁業、また、沿岸水域ではモズク、クルマエビ等の海面養殖業等が営まれている。

6. 宮古の林業

本地域の森林は、地域面積の16.2%と少なく、土壌条件、台風常襲地などのことから干ばつや潮・風害等の被害を受けやすいため、造林事業並びに治山事業による積極的な森林の造成と保全を図り、公益的な機能の発揮に努める必要がある。また、特用林産物生産としてクロアワビタケ、エリンギ等の生産が営まれている。